

# 青森県西目屋村村市学区集落協定



○ 3集落が連携して協定を締結し、農業機械の整備や共同利用の活動を契機に生産組織を設立し、生産組織が中心となった地域の農業を維持する体制を構築。

協定面積：31.4ha（田21.04ha, 畑10.36ha） 交付金額：249万円（個人配分90%、共同取組活動10%）  
 協定参加者：農業者51人、集落営農組合1 協定開始：平成17年度

## 地域の現状

にしめやむら

- 当地区は、青森県西部の西目屋村に位置し、岩木山の麓にある農地で主に水稻、リンゴを栽培。
- 都市部への人口流出、高齢化による後継者不足等で、将来に向け農業の継続が困難になることを懸念。
- 村市、藤川、居森平の3集落が連携して広域の協定を締結し、平成17年から本制度を実施。地域全体で農地を管理する体制づくりに努め、集落営農組合を中心に活動。



【集落協定の話し合い】



【共同作業(水路の泥上げ)】

## 取組の概要

- 本制度の取り組みにより、トラクター、薬剤噴霧機等の農業機械の整備、共同利用を進め、それを契機として平成24年に、農作業受託組織「村市集落営農組合」を設立。
- 令和元年度末に、同組合を含む3集落営農組合が「農事組合法人にしめや」へ統合され、村内全域の耕作が困難となった農地を引き受けており、地域の農地を維持するための役割を果たしている。  
 （村市・藤川・居森平地区における作業受託面積 R2：5ha）
- 組合が耕作している地域の農地では、大豆を生産しており、この大豆を活用して長く生産が途絶えていた地元特産の「目屋豆腐」を製造し、地元の物産館で販売。



【大豆の栽培】



【目屋豆腐】